

2014年度 地域包括支援センター事業部門計画

高齢者ができる限り住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう、総合相談、支援の充実を図り、医療と介護の連携、虐待への対応や権利擁護支援などを強化し、地域におけるさまざまなサービスや資源を生かしながら、高齢者の生活を包括的継続的に支援します。

1. 地域アセスメントの継続

(1) 地域との交流事業の開催、地域連絡会、地域ケア会議を活用した既存のネットワークの強化を図ります。

(2) 地域に高齢者が生活する上で解決すべき課題を共に考え、適切な支援を行うための仕組みとしての新たなネットワークづくりに継続して取り組みます。

2. 地域づくり活動の発展

(1) 認知症高齢者や介護者が、認知症になっても住み慣れた自宅で住み続けられることができるように早期に適切な支援を提供できる相談体制を強化します。認知症に関する正しい知識を普及します。

(2) 地域の高齢者対象に出張相談会やサロン活動等を実施し、予防の重要性の理解と早期からの予防を習慣づけるよう普及啓発を継続します。

(3) 地域の小中学校等で地域住民や保護者とともに世代を超えて行ってきた交流や学習の機会等の活動を継続します。

3. 地域ケア会議の機能強化

(1) 住民参加型の地域ケア会議を継続します。地域住民や介護サービス事業所等が参加して、情報交換と地域課題を共有しつつ交流を深め、顔の見える関係作りを進めます。

(2) 地域のケアマネジャー同士の情報交換やサービスの質の向上、連携の支援を行います。地域の居宅介護支援事業所の主任ケアマネジャーと協働して地域のケアマネジャーを支援する取り組みを進めます。

4. 介護予防支援事業の取り組み

(1) 地域の要支援者に対して、運営基準に基づいた適切なケアマネジメントにより介護予防支援サービスを提供します。

(2) 2015年度の制度改正を見据えた情報収集と対応の検討を進めます。

5. 経営の安定化

(1) 介護予防支援サービスの目標件数を達成します。サービスが必要な要支援者に対して速やかにサービスが提供できる体制を作ります。

(2) 業務マネジメントを適切に行い、健康管理と経費削減の観点から超過勤務の削減を図ります。

杉並区地域包括支援センターケア 24 上井草

地域の福祉課題へのアプローチ

目指す地域像：地域住民のネットワークがあり、地域で解決していく力がある

地域アセスメントをし、アセスメントで見つかった課題を地域づくり活動に活かす。その地域づくり活動を支える、地域の力を地域ケア会議で培っていく—そんなサイクルを作っていきたいと考えています。地域包括ケアシステムの構築のため、地域住民を中心に各関係機関をつないでいけるようにしていきたいと思ひます。

1. 地域アセスメント

(1) 公営住宅を対象とした「ランチ+出前相談会」は“深める”をテーマに実施を継続しました。そのことで、住民の中でも核となる方との連携が進み、会に参加できない住民へのアプローチも協力したり情報共有したりができるようになってきました。今年度は、その相談をいかに住民同士の助け合いで解決していけるか、その仕組みづくり、繋がりづくりをしていきたいと思ひます。

2. 地域づくり活動の展開

(1) 三谷小学校との高齢者疑似体験や収穫祭を通じた交流、井草中学校との災害時宿泊訓練を通じた交流など以前の地域アセスメントから得た「若年層へのアプローチ」を中心に展開しました。今年度も法人事業所と共同し、継続的な交流、啓発活動を行います。

(2) 団塊世代が定年退職を迎えています。今後、ますます進む高齢社会に向け、団塊世代の地域デビューを促していける取り組みをしていきたいと思ひます。

3. 地域ケア会議の機能強化

(1) 昨年度は地域住民参加型の「上井草サポーターズ倶楽部」を開始しました。今年度は、「自分達の住んでいる、仕事をしている上井草を知ることから始めたい」という参加者の声により、上井草地域のアセスメントを進める一年とします。また、昨年度同様、医療機関との連携、個別ケースの検討を丁寧に継続します。

4. 介護予防支援事業の取り組み

(1) 昨年度は平均 191 件/月の実績で推移しました。要介護になられる方、新規で介護保険を利用される方の増減が多くありました。平均 200 件/月を目標にケアマネジャーとの引き継ぎ等も含め適切なマネジメントを実施してまいります。

5. 経営の安定化

(1) 介護予防事業の目標件数を達成します。また、お互いの業務を見直し昨年度比 10%の超過勤務の削減を図ります。

杉並区地域包括支援センターケア 24 善福寺

地域の福祉課題へのアプローチ

目指す地域像：住民同士がつながっていて住みやすさが感じられる地域

1. 地域アセスメントの継続

(1)「地域づくりミーティング」の継続的な実施を通して、ケース対応や事業の実施報告の職場内共有を深めていきました。2014 年度も活動を継続し、地域アセスメントを蓄積していきます。

2. 地域ケア会議の機能強化

(1)2013 年度は地域包括ケアシステムを構築し得る手段として「地域ケア会議」が注目されています。2013 年度は「西荻窪地域ケア会議」や「西荻窪ケアマネジャー連絡会」を立ち上げました。どちらも、介護保険事業の従事者が課題を自由に話し合うことで互いの解決策や地域課題を見出していくために定期的を開催するものです。

2014 年度も地域の解決すべき課題が発見できるよう会議開催を積み重ねます。

3. 地域づくり活動の発展

(1)桃井第四小学校の体験講座を例年の行事として位置づけられるよう、地域の学校支援本部と協働して活動を継続します。

(2)地域の元気高齢者の活動拠点である「ゆうゆう善福寺館」との協働を進め、かがやき亭での「かがやきサロン」サンフレンズ善福寺での「善福寺サロン」も開催継続します。

この他にも住民主体の活動が少しずつ展開されています。これらの活動との協働・連帯を重ね地域の情報が集積されたセンターづくりを行います。

4. 事業所移転の検討

(1)地域包括ケアシステム構築への体制づくりへ向けて、ケア 24 に求められる役割も大きくなっていきます。人員体制増・上記活動のさらなる発展に対応できるよう、ハード面の整備として事業所移転を計画します。今年度は根拠とする予算確保が困難なため、次年度以降の実施を目指し情報収集・計画づくりを行います。

5. 経営の安定化

(1)最大限の収入の確保

2014 年度も例年通り、出来高委託料を最大限獲得します。

介護予防支援プランの件数は昨年度比月平均で 25 件増加しています。この見込みのまま、今年度末時点で月 211 件到達を目標とします。必要な利用者に適切にサービスを提供できるよう、掘り起こしを十分に行って見込みを下回ることはないようにします。

(2)可能な限りの支出の抑制

消費税関連の支出増に対応すべく、さらなる超過勤務・経費の削減を行います。